8. 6ヒロシマ平和へのつどい 2012

核・原子力と“生きもの”は共存できない

ヒロシマから反被曝の思想を！

■日　時：8月5日（日）17:00～20:00

■会　場：広島市まちづくり市民交流プラザ
（広島市中区袋町6－36）■参加費：1,000 円

第2部　記念講演　19:00～20:00

「被爆者・被曝者の連帯のために―3・11後の地平」

講師：高　橋　哲　哉

1956年福島県生まれ。現在、東京大学大学院総合文化研究科教授。哲学、「人間の安全保障」等を担当。ベストセラーとなった『靖国問題』をはじめ著書多数。最新刊に、『犠牲のシステム　福島・沖縄』（集英社新書）、『いのちと責任』（高史明との共著、大月書店）がある。

◆呼びかけ人

青木克明(医師)/足立修一(弁護士)/網野沙羅(変えよう！被曝なき世界へ　市民アライアンス)/石岡敬三(グローイングピース)/石口俊一(弁護士、広島県9条の会ネットワーク)/井上正信(弁護士)/上羽場隆弘(九条の会・三原)/大野明彦(郵政労働者ユニオン広島中央支部長)/岡田和樹(上関原発を考える広島20代の会)/岡本珠代(岡本非暴力平和研究所)/岡本三夫(広島修道大学名誉教授)/奥野しのぶ(どなべねっと)/尾崎幸雄(郵政ユニオン広島東支部長)/嘉指信雄(NO　DU　ヒロシマ・プロジェクト代表)/上関英穂(郵政労働者ユニオン本部執行委員)/北西　允(広島大学名誉教授)/木原省治(原発はごめんだヒロシマ市民の会代表)/木村浩子(呉 YWCA We Love9 条)/久野成章(環境社会主義研究会)/久保まさかず(広島の歴史をみてまわる会)/久保田十一郎(日本キリスト教団西中国教区・広島西分区牧師会)/坂田光永(原発震災を考える福山市民の会)/佐々木　孝(第九条の会ヒロシマ)/沢田　正(ジャーナリスト)/実国義範(平和を考える市民の会・三次)/進藤狂介(軍縮問題研究者)高橋博子(広島市立大学広島平和研究所講師)/竹本和友(ピースサイクル広島ネットワーク事務局長)/竹原陽子(広島花幻忌の会)/伊達　工(ピースサイクル全国ネットワーク共同代表)/田中繁行(ピースサイクル呉)/田中利幸(広島市立大学広島平和研究所教授)/田村順玄(岩国市議、ピースリンク岩国世話人)/哲野イサク(Web　ジャーナリスト)/土井桂子(日本軍「慰安婦」問題解決・ひろしまネットワーク)/戸村良人(ヒロシマの今から過去を見て回る会)/豊永恵三郎(被爆者、韓国の原爆被害者を救援する市民の会広島支部長)/長尾真理子(呉 YWCA We Love9 条)/中峠由里(呉 YWCA We Love9 条)/永冨弥古(呉 YWCA We Love9 条)/西岡由紀夫(ピースリンク呉世話人)/新田秀樹(ピースリンク広島世話人)/難波郁江(広島　YWCA　会員)/浜根和子(個人)/原田二三子(変えよう！被曝なき世界へ　市民アライアンス代表)/日南田成志(「原発を問う民衆法廷・広島法廷」事務局)/平岡　清(郵政労働者ユニオン中国地方本部委員長)/平岡典道(ピースリンク広島・呉・岩国)/平賀伸一(広高教組呉地区支部平和教育推進委員長)/藤井純子(第九条の会ヒロシマ)増見新次(郵政労働者ユニオン呉支部長)/三嶋研二(郵政労働者ユニオン中国地本副委員長)/溝田一成(脱原発へ！中国電力株主行動の会)/村田民雄(市民運動交流センター・ふくやま代表)/森瀧春子(核兵器廃絶をめざすヒロシマの会共同代表)/森本道人(変えよう！被曝なき世界へ　市民アライアンス)/山田忠文(東北アジア情報センター運営委員)/山田禮正(人民の力)/湯浅一郎(ピースリンク呉前世話人、当実行委員会前代表)/湯浅正恵(広島市立大学教授)/横原由紀夫(広島県原水禁元事務局長)/吉井信夫(ピースサイクル広島ネットワーク代表)/吉田正裕(東北アジア情報センター運営委員)/吉村健次(被爆二世、美しい錦川を未来へ手渡す会代表)

◆賛同団体

ピースリンク広島・呉・岩国／広島YWCA／呉YWCA／第九条の会ヒロシマ／ピースサイクル広島ネットワーク／郵政労働者ユニオン中国地方本部／ピースサイクル全国ネットワーク／変えよう！被曝なき世界へ　市民アライアンス

<主　催>8. 6ヒロシマ平和へのつどい 2012 実行委員会(代表／田中利幸)　http://www.d6.dion.ne.jp/~knaruaki/

■事務局：住所　広島市西区天満町 13-1-709　電話 090-4740-4608　伝真 082-297-7145

Eメール　kunonaruaki@hotmail.com　賛同カンパ1口 1,000 円　郵便振替「8・6つどい」01320-6-7576

8．6ヒロシマ平和へのつどい2012
核・原子力と“生きもの”は共存できない―ヒロシマから反被曝の思想を！

1 人類を含むあらゆる“生きもの”に敵対する核・原子力体制こそが、福島放射能汚染危機の本質

ウラン採掘・加工を出発点とする核兵器（DU 兵器を含む様々な種類の核兵器製造、核実験、核兵器輸送）ならびにその応用である原子力産業（原発稼働、核廃棄物、核燃料再処理など）では、核兵器の使用や原発事故ではもちろん、そのあらゆる工程で多量の放射能を放出しています。広島・長崎への原爆投下やチェルノブイリ・福島での原発事故からも明らかなように、放射能は、人間のみならず、家畜、ペット動物、野生動植物、海洋生物を含むあらゆる「生きもの」を無差別に且つ大量に「殺傷」します。20世紀半ばから始まった「核の時代」は、かくして、人類を含むあらゆる「生きもの」、すなわち様々な生命体を犠牲にして築き上げられてきた、いわば「殺戮の政治・経済・社会・文化体制」であると言えましょう。このような体制の確立と維持に努力または協力してきた人間の行為は、人類とすべての生物と地球を絶滅の危険に曝すことを厭わなかった明確な「犯罪行為」でしたし、現在も多くの人間が、そうした犯罪行為に深く関わっているのが実情です。この犯罪行為の重大性は、3・11福島原発事故による放射能危機で、誰の目にも明らかとなりつつあります。

2 反被曝の思想を！

現在私たちが直面している最も重要な課題は、放射線の人体に対する影響です。政治家・官僚や資本家たちは、偽りの電力不足を口実にした原発再稼働で、全市民に被曝を受忍させようとやっきになっています。福島現地はもちろん全国各地で、低線量放射能は安全だとの「放射能安全神話」を、教育機関やマスメディアを通じて浸透させようとしています。その結果、日本列島全域で、食品放射能汚染がじわじわと進行しています。広島・長崎の経験からも明らかなように、被曝は受忍するものに最も強く押し付けられます。被曝の最小化、低減化の実現は、被曝を徹底的に拒否する「反被曝」の思想を抜きにしては実現できません。とりわけ、私たちの体を内部から細胞レベルで破壊していく内部被曝、その被曝線量に「安全値」などというものはありません。したがって、今、私たちは、被曝に抵抗していく思想をどう築くのかが問われています。この問題は日本の市民に限られた問題ではありません。恥知らずにも、日本の政治家・官僚や資本家は原発を海外に輸出し、新興国や発展途上国を放射能汚染させることをいささかも厭わず、今度は海外の市民を犠牲にしてまで利益を上げようと計画しています。犠牲を世界に拡大する、このような「被曝の輸出」にも、私たちは断固反対しなければなりません。

3 闘う広島、懐柔・利用された「ヒロシマ」

敗戦後間もなく、占領軍による検閲体制の下、大田洋子、栗原貞子、原民喜、正田篠枝、峠三吉、山代巴ら文学者、丸木位里・俊ら芸術家による原爆の徹底批判が始まりました。どんな状況下でも人間性を深く追求し続けたこれらの人たちの信念が、今の私たちを支えているのです。広島で原爆禁止が初めて提起されたのは、1949 年 10 月 2 日の平和擁護広島大会であり、翌年の朝鮮戦争反対の非合法アピールにも、「原爆を廃棄せよ」という要求が含まれていました。1954 年ビキニ核実験被災を機に始まる原水爆禁止運動は、大きなうねりとなり過去最大規模の国民運動となりました。この大高揚にもかかわらず、いや、それゆえにこそ、「ヒロシマ」は日米支配層から懐柔・利用されるターゲットとされました。ヒロシマ・ナガサキは「放射線は外部から大量に浴びない限り、健康に大きな影響はない」とする「放射能安全神話」のモデルとされました。その結果、核の世界拡散体制＝ヒバクシャ拡大体制に、広島市民が十分に抗することができなかったのではないかと考えます。私たちは今こそ、このことを真摯に受けとめ、深く考え直す必要があります。一例をあげれば、旧 ABCC（原爆傷害調査委員会）、現在の放射線影響研究所が研究し続けている LSS（原爆生存者寿命調査）のデーターは、広島・長崎の放射線被害を過少評価し、内部被曝・低線量被曝が重大な問題ではないという「放射能安全神話」を世界中に拡散させ、国際放射線防護委員会（ICRP）体制の「被曝受忍強制」の基盤を提供してきました。

4 チェルノブイリの終わらない惨劇とヒロシマ

1986 年のチェルノブイリ原発爆発事故後、26 年を経た今、深刻な事態が徐々に認識され始めています。例えば、セシウム 137 は、全身の臓器や器官に蓄積しやすく、その結果、様々な癌や心臓疾患、不妊、流産、死産が多発し、重大な健康損傷を多くの市民、とりわけ幼児・子どもに与え続けています。ヒロシマのデーターが全く役に立たないどころか、皮肉にもその情報が、権威ある医師・研究者たちによって被害者の健康損傷を過小評価するために利用されており、原発推進側に悪用されているのです。私たちは、この「ヒロシマの権威」に裏付けられた嘘を打ち破らなければなりません。そうしなければ、この「ヒロシマの嘘」は、「フクシマの嘘」の拡大と正当化にも繋がってしまいます。

5 侵略戦争・国家責任の問題

大陸出兵の拠点であった軍都廣島の責任、アジア侵略戦争に対する日本国家の責任を追及し、被害者に対して国がその被害を償うこと＝国家賠償・国家補償をさせること、すなわち、軍「慰安婦」をはじめとするあらゆる戦争被害者、朝鮮人をはじめとする在外被爆者、すべての原爆被害者に対して償いの表明と賠償を実現させる運動を引き続き継承していかなければなりません。

2015年、「世界核被害者大会」の広島開催を

私たちにいま要求されていることは、総体的且つ長期的に観れば、単なる人間としての「世直し」の倫理的行動ではなく、あらゆる生命体を守るための「生きもの」としての倫理的行動なのです。そうした行動の一つとして、私たちは、原爆投下70周年に当たる2015年、「世界核被害者大会」の広島開催を提唱します。

＜第1部（17時～19時）内容＞

●「ヒロシマから」
木原省治（被爆二世）

●「ナガサキから」
平野伸人（全国被爆二世団体連絡協議会前会長）

●「国家補償に基づく被爆者援護を」
渡辺淳子（ブラジル被爆者平和協会常任理事）

●「伊方原発を廃炉に。大分から」
池田年宏（ピースサイクル全国ネットワーク）

●「オスプレイの沖縄・岩国配備を許さない」
田村順玄（岩国市議、ピースリンク岩国世話人）

●「ヒバクシャーわれらみな核の風下の人々」
豊崎博光（フォトジャーナリスト）

●「2015 年世界核被害者大会へ」
田中利幸（当実行委員会代表）

●「生命の母・海からの警告」
湯浅一郎（当実行委員会前代表）

●「市民による平和宣言 2012 採択」

●8月6日の行動提起
7:00～「市民による平和宣言 2012」等配布行動
7:45～グラウンド・ゼロのつどい（原爆ドーム前）
8:15～ダイ・イン（原爆ドーム前）
8:45～「8・6 広島デモ　原発も核兵器もない世界へ」
（→中国電力本社前。脱原発座り込み行動に合流）